



コロナと共に

「目を見てほほえみ 笑顔でいいさつ こんなには」
この小学生の標語を某所で見かけた私も、おもわずニッコリ。

世の中(世界中)コロナ、コロナ…で、この一年来、コロナ禍の話題に接しない日はありません。経済に及ぼしている影響は深刻で、物理的にも精神的にも人とのつながりを断ち切ろうとしているようになります。コロナ禍によって引き起こされた課題に対して、仏教は、どう生きろと論すのでしょうか?

こうした中、現在に生きる人々の支えになるよう、時代の要請に応じられるよう、天台宗では布教方針として三つの柱を掲げています。それは「生命」「奉仕」「共生」です。そこに「教育」「安心」を加え、家庭宗教や宗教的情操によって、年中行事や法事にどんな意味が込められているのか、その意義を説いています。感染者数は気になるところですが、こんな時こそ、生活習慣を見直したいものです。食生活をはじめ、睡眠や運動の質を見直します。疲労が蓄積しないよう休養をとり、免疫力を高めて、感染の防止を心掛けたいものです。また「爽快感」は大切なキーワードです。

毎日の生活で代謝が促進でき、油断なく過ごす事により、脳内で「オキシトシン」というホルモンが分泌されるといいます。このホルモンは「人間信頼ホルモン」又は「幸せホルモン」などと呼ばれ、「利他的本能」が発達すると指摘されています。日々の生活を整えることが、周りにもいい影響を及ぼすという訳です。

風邪やインフルエンザもつらいものですが、毎日お互いの体調に気遣うよう行動したいものです。自分が整えられれば、相手の心配もできる様になります。他者を気にかける姿を見ると、やしさは伝播していきます。

こうした日々の姿勢こそが、「伝教大師最澄が遺された「道心ある人となる」「一隅を照らす」「己を忘れて他を利用するは慈悲の極みなり」等のお言葉にも、適していく事でしょう。

昔から「袖振り合うも多生の縁」といいます。つつじ見物で居合わせた人とも、同じ時代、同じ場所に生かされている不思議な「縁」です。まさにこの世は「一切衆生悉有仮性」であり、「一切衆生悉皆成仏」なのです。

住職 中島 有淳

「目を見てほほえみ 笑顔でいいさつ こんなには」
世の中(世界中)コロナ、コロナ…で、この一年来、コロナ禍の話題に接しない日はありません。経済に及ぼしている影響は深刻で、物理的にも精神的にも人とのつながりを断ち切ろうとしているようになります。コロナ禍によって引き起こされた課題に対して、仏教は、どう生きろと論すのでしょうか?

こうした中、現在に生きる人々の支えになるよう、時代の要請に応じられるよう、天台宗では布教方針として三つの柱を掲げています。それは「生命」「奉仕」「共生」です。そこに「教育」「安心」を加え、家庭宗教や宗教的情操によって、年中行事や法事にどんな意味が込められているのか、その意義を説いています。

感染者数は気になるところですが、こんな時こそ、生活習慣を見直したいものです。食生活をはじめ、睡眠や運動の質を見直します。疲労が蓄積しないよう休養をとり、免疫力を高めて、感染の防止を心掛けたいものです。また「爽快感」は大切なキーワードです。

毎日の生活で代謝が促進でき、油断なく過ごす事により、脳内で「オキシトシン」というホルモンが分泌されるといいます。このホルモンは「人間信頼ホルモン」又は「幸せホルモン」などと呼ばれ、「利他的本能」が発達すると指摘されています。日々の生活を整えることが、周りにもいい影響を及ぼすという訳です。

風邪やインフルエンザもつらいものですが、毎日お互いの体調に気遣うよう行動したいものです。自分が整えられれば、相手の心配もできる様になります。他者を気にかける姿を見ると、やしさは伝播していきます。

こうした日々の姿勢こそが、「伝教大師最澄が遺された「道心ある人となる」「一隅を照らす」「己を忘れて他を利用するは慈悲の極みなり」等のお言葉にも、適していく事でしょう。

昔から「袖振り合うも多生の縁」といいます。つつじ見物で居合わせた人とも、同じ時代、同じ場所に生かされている不思議な「縁」です。まさにこの世は「一切衆生悉有仮性」であり、「一切衆生悉皆成仏」なのです。



折りふしのはなし

春爛漫 (はるらんまん)

桜の新芽は生まれたばかりの赤ちゃんのように柔らかく

海棠・石榴花・菜の花・等々

花々の共演に心を奪われ

ついつい気が緩み転ばぬよう

足元に気をつけましょう!

(遊)



月例行事案内

※マスク着用の上、静かにご参詣下さい

◎八日 午後二時
薬師如来祈祷会・花まつり

◎十二日 午後二時
智泉院法要日(於・日本橋茅場町)

◎四月二十八日 午後二時
所願成就七難即滅七福即生
観音經讀誦法要(於・神木觀音堂)

それぞれの行事で
御札を授与いたします
郵送も受付ております

大般若經轉讀大護摩

※本年は感染症対策として本堂内を人数制限(イス席固定)させて頂きます

満席の際は外陣や屋外席のご案内となる旨ご了承下さい
法要はライブ配信を予定しています

*毎朝六時より公開で朝のお勤めをしております
ご都合のよろしい時にはご一緒にどうぞ

つつじの満開時期、毎回異なるテーマで法話を。後日ネット配信も。
<花説法> 4月17(土)、18(日)、20(火)、22(木)、24(土)。11時~15分程度。

日本仏教の本流であり、日本文化の基礎である『法華經』を、およそ2年かけて通読していく会を始めます。
月1回／全24回(予定)。単発参加歓迎。

~2年かけて『法華經』を読む会~
第1回…4月29日(木・祝)10:00~11:00
要事前申込・定員10名・300円

経典(テキスト)は寺にあるものを使用します。初回は『法華三部經』のうちの『無量義經』。意味を解説する講義形式ではなく、声を出してお經をお唱えしていく、行の形式です。

変化の激しい現代において、1,000年以上変わることなく護持されてきたお經に直接触れ、味読する機会。2年という長丁場は参加される方の錨となる筈です。

月例「止観(坐禅)会」4/17(土)
10:00~11:00 申込順14名・500円



おひな祭り

○四月八日はお釈迦さまのお誕生日で「花まつり」です。諸天が祝い「甘露の法雨」が降ったといいます。

○四月・五月は例年「ご巡行」が実施されます。當山のお不動様が近隣に出開帳する、古くからの風習。御世話人各家みなさま、本年もよろしくお願い致します。

○オリジナルの様子は未だ見えず、やきもきします。新聞に「五輪・パラ海外客断念、五者が同意(3/21)」とありました。

○ジャズ・ピアニストのチック・コリアが癌のため逝去(79)。キス・ジャレットも病に倒れ、共に若い時からファンだっただけに、残念です。

合掌